

平成 22 年 9 月 18 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中齋塾 北関東フォーラム

平成 22 年 第 8 回講話

足の裏に「有難う」

おはようございます。8 月は夏休みを戴きました。

最近私は、「有難う」と自分の身体に対して言うようになりました。私の兄から、1 万歩くらいならいいが 2 万歩歩くと身体が痛くなるという話を聞いて、人体実験をしてみました。2 万歩歩いてみたら、さほど影響がありませんでした。8 月は後半ずっと赤城山にこもっていましたが、時間がたっぷりありましたから、2 万 5 千歩、2 万 6 千歩と歩いてみました。2 万 5 千歩超すと、確かに腰に影響が出ます。自分の人体実験で 2 万 5 千歩以上はやってはいけないのだと分かりましたので、9 月 1 日以降は 1 万歩減らして 1 万 5 千歩に切り替えて歩いています。

朝起きると、まず歩きます。今朝も荒川の土手を 4 時 50 分から 5 時 50 分まで、6 千歩歩きました。その後サウナに入って汗を流して、朝食をとってから太田に戻って来ました。

生活習慣で新たに加わったのは、お風呂に入ると必ず足の裏を揉むようにしています。足の裏のどの部分が身体の何処に効くか、色々な本に書いてありますから、それを確認しながら足の裏を押ししたり擦ったりしますと「ご苦労さんだったね・どうも有難う」という言葉が自然と出てくるようになりました。

検証

本当は夏休み 1 ヶ月間とお聞きしたいところですが、初めての方もおられるので、昨日一日でお聞きします。

昨日一日、朝起きてから夜寝るまでの間、有難うと言われた方？

では、有難うと言った方？

(・・・沢山手が拳がる)

昨日一日、良い日だったと思える方？

(・・・沢山手が拳がる)

手の拳がらない方がちらほらおられますので申し上げます。福田理事の好きな「よく見

れば なずな花咲く 垣根かな」という句がございます。道を歩いていると垣根の下に花が咲いている。心に余裕がない時はすっと通り過ぎるけれども、心に余裕がある人は足を止めて、なずなの花だとじっくり花の可憐さを味わう心境になってくる。一日の間で、嫌なことは沢山あると思います。しかし良いことも少しはあるはずです。それらを比較してどちらが多い少ないと考えるのではなくて、嫌なことが沢山あったならば、掌で丸めてふっと吹いて飛ばしてしまえばよいのです。良いことを拡大解釈して、良い一日だったと思って寝る。そういう生活習慣をつけて戴くと、翌日は目覚めが良い。翌朝快調に気持ちよく起きる為には、良いことを思い出して、良い一日だったと結論付けて寝ることをお勧めします。

ひと夏、良い夏だったなと思える方？

(・・・数名手が挙がる)

先日、前橋の会計事務所の社長さんと話しをしました。私がこの夏休みに半月は赤城山にこもっていたという話しをしました。その方は「私は1ヶ月間まるまるお休みを貰ったら、どう過ごしてよいか分からない」と言いました。更に、1日のスケジュールを聞きたいというので、

「早起きして草むしりを1時間、歩くのを2時間、風呂が30分から1時間、本を読んだり書いたり・・・というスケジュールを組み合わせていくと、一日はあっという間に過ぎてしまいます。規律正しい生活をしていると、時間が経つのは早いですよ」と話しました。その方は、「何も無い所で何も予定がない日が1ヶ月もあったなら、どうやって過ごしたらよいか見当がつかない」と、ため息をつきました。現役の社長業をしていると次から次に仕事が寄ってきて、仕事に追いまくられていると、そういう感想が出るのかなと思いました。

渋沢栄一さんは、息子の渋沢秀雄さん曰く、仕事を追いかけるような人だったそうです。自分から仕事を求めて動き回るので、どんどん仕事が集ってくる。それを捌くのが渋沢栄一さん自身は快感だったようです。「私の最大の道楽は仕事を捌くことだ」と言い残しています。仕事に追いまくられる人生よりは、仕事を自分で作って追いかけていく人生の方が渋沢栄一さんにすると豊かで充実したものだったということが渋沢さんの『論語講義』には書かれています。

仕事を追いかける渋沢栄一さん型と、会計事務所の社長さんのように、気がつくとも仕事が寄って来ているのと、二通りありますね。仕事が向こうから寄って来ているような人生を過ごしてきた人は、定年退職をするとポカンとしてしまう場合が多いようです。どの人生を択ぶかは、皆さん自身です。

「足るを知る」が、世界を救う

中斎塾フォーラムの基本哲学は、知足（足るを知る）です。安岡正篤先生は、なぜ「足」なのか、知手ではないのか不思議だったと書いておられます。それがあつた時、医者から、人間の身体を支えているのは手ではなく足なのだという話を聞いて、「足」が「知足」という言葉に使われるのが納得できたそうです。手は物を掴むことは出来るけれども、身体を支えることは出来ません。足が悪くなつたら普通の動きは出来ません。

私は今、足の裏をせっせと擦つたり、押ししたり、揉んだりしています。すると、何と骨が太いかと感ずます。特に親指の骨の太さや大きさは、自分で押していて驚きます。足の裏を押していると、本当に硬い部分と柔らかい部分が渾然一体となつていて、これが自分の身体を支えてくれているのだなとつくづく思ひます。それほど頑丈で素晴らしい足でも、使つた後はフォローしなければなりません。フォローすることによつて、又、しっかり歩いてくれる。家庭も同じで、フォローし続けないとすぐに問題が生じてきます。

知足というのは、ほどほどで良いじゃないかと物事を考えていけば良い。

今回の民主党の代表選も、党内が真二つに割れました。小沢さんがほどほどで辞めて矛を収めておけば、あれほど亀裂が生じることはなかつただろうと思ひます。あれだけ熾烈な戦いをする、後遺症で民主党の中はかなり酷い状況になつたと思ひます。菅さんも頑固なまでに自分の考えを貫いていました。

政治において、ほどほどで選挙戦を終えるというのはなかなか難しいなと思ひつつ、どこかでこれ以上やつてはいけな、後が大変だと思ひて、適度なところで矛を収めるといふ機微を、政治家は持たなければいけないのだらうと思ひます。夫婦喧嘩の場合も、どちらかがほどほどで矛を収めておくと、後は夫婦円満にいられます。

ほどほど・・・思つてもあまり言わない。足るを知るというのは、家庭生活が日常円満にいられる大きなポイントです。会社組織や自治体、大きく言えば国と国との外交も、足るを知るという考え方でやつていれば良いと思ひます。今回の尖閣諸島の問題については、中国はほどほどという感覚はこれっぽちもないと感ずます。これから世界が順調に相融和していくとしたら、ほどほど・足るを知るという考え方をそれぞれの国家が持てるかどうかにかかっていると感ずます。

日本の場合、来年の暮れ頃から経済的には更に転げ落ちるはずで、そんなつた時に、食べものを自分だけで抱えて人にはやらないというのではなく、少しずつ分ける。皆がほどほどに食べられる、ほどほどに生きられるということを経験する良いチャンスが、来年の暮れから起きるであらうと思ひています。

今日の論語

論語の解説を致します。論語は現代の時勢に置き換えて考えるとよろしい。

本日の論語は雍也第六 17～24 です。

【十七】 子曰く、人の生くるや直ちよくなればなり。之これを罔しいて生くるは、幸さいわいにして免まぬかるなり。

孔子が言うには、人は正直で生きるが良い。不正直で生きるのは、まぐれ当たりで生きているようなものだ。

鳩山さんは正直で、小沢さんと菅さんは不正直です。というように、鳩山さん、小沢さん、菅さんと分けて読んでみました。

鳩山さんは「母親からお金を貰いました。税金も払いました」と、本人は正直者のつもりです。これ以上もたないと思えば、さっさと総理大臣の椅子から降りてしまった。小沢さんが立候補するにあたって、「私は小沢さんに総理大臣にして貰いました。恩義があるから小沢さんを総理大臣にするよう努力したいと思います」などということ、普通は言いません。腹の中にあるものを、そのまま正直に喋っているのが鳩山さんです。

政治家も齢を重ねてくると不正直で嘘をつく人が多い。そうすると顔色が悪くなります。小沢さんのどす黒い悪代官のような人相と、鳩山さんのお坊ちゃんがだんだん悪がきになってきたような人相とを比べてみれば、どちらが正直でどちらが不正直か見当がついてくる。正直者は誰か、不正直は誰かを判断するには、人相を見れば分かると思います。

【十八】 子曰く、之これを知る者しは、之これを好む者しに如かず。之これを好む者しは、之これを楽しむ者しに如かず。

何かを知っているという人は、それを好きだという人には及ばない。好きだという人は、それを楽しんでいる人には敵わない。

食事で考えてみると、<これはこういう味がする>と知っているよりは、<これは美味しい>という方が良い。さらに上は、和気藹々とテーブルを囲んで楽しんで食べるが良い。

【十九】 しいわ 子曰く、ちゅうじんいじょう 中人以上には、もっ かみ つ 以て上を語ぐべし。ちゅうじんい か 中人以下には、もっ かみ つ 以て上を語ぐべからざるなり。

天分のある人もいますし、一所懸命勉強して学力が身についた人もいます。学力・知識等が平均以上になっている人には、孔子の考えている高度な学問や説を一所懸命説明してもよい。ただ人さまに何か教える場合、平均以下の人に話しをするのには、よほど考えた方がよい。全部一所懸命話しをする必要はない。相手の理解力をよく見定めて、話しをした方がよいということがあります。

私の体験を申します。会社の教育にあたっている社員に、こういうふうに教育をなさないと教育の仕方を半日くらい精魂込めて話しをしました。大体理解してくれたな、伝わったなと思っていたら、少し時間をおいて聞いてみると全然伝わっていなかったのが分かってがっかりした経験があります。半日かけて精魂込めて伝えたつもりが、伝わっていないと実感したら、文字が見えなくなってしまいました。視力が一気に落ちました。精魂込めて話をする場合は、相手の学問的知識がどれくらいなのか見定めて、相手の理解能力に合わせて話しをしようと、この時に覚えました。

精魂込めて何かをやって、それが逆目に出た時は、体力を著しく消耗します。それが目に出た時は怖いですね。曾野綾子さんも視力がなくなるのを覚悟したことがあったそうですが、たまたま素晴らしい目医者さんに出会って手術をして、奇跡的に視力が回復したそうです。

【二十】 はんち 樊遲 ち 知を問う。しいわ 子曰く、たみ ぎ つと 民の義を務め、きしん けい 鬼神を敬して之を遠ざく。ち い 知と謂うべしと。じん と 仁を問う。いわ 曰く、じんしゃ かた 仁者は難きことを先にして、さき 獲ることを後にす。あと 仁と謂うべしと。

樊遲は孔子よりも36歳下ですから非常に若いお弟子さんです。もの分かりの悪いお弟子さんなので、前の文章の「中人以上には、以て上を語ぐべし。中人以下には、以て上を語ぐべからざるなり」で、孔子は樊遲に対してはこういうふうに教えたのだという具体的な説明だと理解して下さい。

樊遲が「知」について孔子に質問しました。

孔子が「国民には国家に対する義務を自覚させなさい。先祖に対するお祭りは、敬意を

を払うだけで深入りしてはいけない。これが知というものだよ」と言いました。

孔子は中人以下の樊遲に対して、かなり具体的に教えています。

国家に対する義務とは、今で言えば税金をきちんと払いなさいとか、日本の国に外国の軍隊が攻めて来たら応戦する義務を持っていると自覚させなさい、といったところでしょう。ただ、今の日本人は外国が攻めてきたらさっさと逃げ出すか、さもなければ無条件降伏する国だと周りから見られています。

鬼神は、自分自身の祖先です。深入りをして自分自身の先祖以外もお祭りするのは、他の一族の先祖に媚び諂うようなものだから、いけないと言っています。

樊遲の場合、損得を考えたり、鬼神を信じて迷って行動がおかしくなったりするから、こういう言い方をしたのだと伝わっています。

更に樊遲が儒学の一番根本の考え方である「仁」について質問しました。

孔子が、「出来そうもないと思うことや、大変なことを先に実行して、報酬は後から貰えば良い。それが仁というものだよ」と言いました。

仕事をする前に、報酬を要求してはいけないと教えています。

今の日本の団塊の世代以上の人は、こういう考え方が根づいています。転職をする時に、「私の仕事ぶりを見て、給料を決めて戴ければ結構です」と、格好良いことを言う人が昔は多かった。しかし最近はそうではありません。「私にいくらお給料をくれますか？ それによって入るか入らないかを決めましょう」などと言う。そういうことをしてはいけないと孔子が言っております。

【二十一】 しいわ 子曰く、ちしゃ みず たの 知者は水を楽しみ、じんしゃ やま たの 仁者は山を楽しむ。ちしゃ うご 知者は動き、じんしゃ しず 仁者は静か
ちしゃ たの なり。じんしゃ いのちなが 知者は楽しみ、仁者は 寿 し。

孔子が言うには、知の人は水を楽しむ場合が多い。仁の人は山を楽しむ。知者は動くことが好きであるし、仁者はじっと静かにしているのが好きである。知者は楽しみをじっくり味わう人生を送るだろうし、仁者は目立たないけれども健康で長生きをする人が多いだろう。

【二十二】 しいわ 子曰く、せい いっぺん 斉 一変せば、ろ いた 魯に至らん。ろ いっぺん 魯 一変せば、みち いた 道に至らん。

孔子が言うには、太公望が建てた斉の国は良い国である。これが改革をすれば、周公の

建てた魯の国に近づくだらう。魯の国が努力して変えていけば理想の国になるであらう。

「道に至らん」というのが肝心な話です。これは理想の国家になるということですから、今の日本の中で考えると、自民党は理想の政党ではない。代わって出て来た民主党も理想の政党ではない。新しく出来た政党は名前すら覚えられない。理想の政党はどうかと考えると、一変してもなかなかならないと感じます。

とすると、理想の政党は未だ日本にありません。今ある政党が一変した場合に、理想の政党になるかということ、甚だ疑問です。今、日本の国のリーダーシップをとっている人々・政党がいくら変わろうとも、日本の国が浮上するはずがない。これならば国の運命を託するに足る新しいものが出て来た時に、初めて理想の国家へ向って進んでいくであらうと読めばよいと思います。

【二十三】 ^{しいわ}子曰く、^こ觚 ^こ觚ならず。^こ觚ならんや、^こ觚ならんや。

これは、孔子の愚痴です。酒杯という言葉を使って、礼儀作法が廃れてしまったことを孔子が嘆いています。

觚は、酒杯です。

孔子が言うには、昔の酒杯は良かったな。今の酒杯は形が変わっているから、飲む気がしないねえ。

孔子は、礼儀作法は昔のままが良いと思っているにもかかわらず、時代が移るにつれてどんどん礼儀作法が廃れてくるのは良くないと言っています。

一昨日、鳥取から友人が訪ねてくれました。35歳の時に会って以来、一度もお会いしていませんでしたが、仕事で太田に行くので会いたいと連絡がありました。日本青年会議所で知り合って、30年ぶりの再会でした。見た瞬間に、あまり変わっていませんでしたので、ずっと話ができました。向こうは、「深澤さんはもっと大柄だと思っていました」と驚かれています。私が90キロ以上あった時にお会いして以来で、今私は70キロですから、大分違うはずです。ダイエットをしていますから、計ってみると肩幅から胸郭や腰回りから全部縮むのです。

ともあれ30年ぶりに会っても、昨日まで会っていたかのようにお喋りが出来るというのは、良い人間関係だと感じました。私は毎年、年に4回、季節のたよりを出しています。その方も30年間ずっとやり取りをしているので、どんなことをしているかお互いに分かっ

ていますから、昨日別れたような感じですよとお喋りが出来る。ですから自分の近況を知らせておくのも、相手から近況を知らせて戴くのも良いことだなと思いました。

【二十四】 宰我さいが問といて曰いわく、仁者じんしゃは之これに告つげて井せいに仁ひと有ありと曰いうと雖いえども、其それ之これに從したがわんやと。子曰しいわく、何なん為すれぞ其それ然しからんや。君子くんしは逝ゆかしむべし、陷おとしらしむべからざるなり。欺あざむくべし、罔しうべからざるなりと。

孔子は宰我があまり好きではないので、そういう感じがちょっと出ています。

宰我が孔子に言いました。

仁者（徳ある者）は、井戸に人が落ちましたと告げられたら、さっと井戸に走って行くでしょうか。

孔子が言いました。

どうしてそんなことをするのだろうねえ。君子は井戸までは走って行くけれども、井戸に入ることはしない。仁者は道理が通っているものであれば、騙すことはできる。しかしあり得ないことだと思ふようなことであれば、騙すことは出来ない。

山田方谷は「事の外に立ちて」という科白を言っています。何か大きな問題が起きた時に、その問題の渦中で苦しんでいると解決できない。その渦から出て客観的に判断すれば、その問題を解決できます。例えば、会社の取引先が倒産して大変な不渡りが出る。或いは連帯保証人になった友人が逃げてしまう。そういう大きな問題が降りかかって来た場合、大変だ！ と頭が真っ白になって身動きが出来なくなってしまう。その時に、一步外に出て客観的にもものを見る。連帯保証の責任をとっても命を取られることはない、財産を取られるだけだからもう一度やり直せばよい、と肚をくくると次なる手が打てます。

くれぐれも論語は現代に置き換えて読むのがポイントです。自分自身の視点で、現代に置き換えたらどうかという読み方をして戴きたい。

何度も読み返したくなる本はありますか？

本日のテーマは書物の読み方についてお話します。ご紹介するのは、木内信胤先生が書かれた『日本よ、こう進め！』という本です。先生は目次を書くのがお好きでした。「本を書く時には、最初、目次を書くのだよ。そうすると落ち着いて、楽しくなってくる」とお

っしゃっていました。目次を書きながら、自分自身の思考の手順を順序よく並べて書いておられました。中を見ると、強く言いたいことが大きな活字になっています。先生のような本の書き方をしてみたいと思って、今の陽明学シリーズを書くのに参考にしています。

本を読む時に、書いている方の息遣いが伝わってくるような本は良いですね。又、そういう読み方が出来ると良いと思います。自分で気に入った本は何度も何度も読み返したくなって、常に手元に置いておきたくなる。手ごろの大きさであれば、旅に出る時にも持っていきたいと思います。1年の間に何度も読み返してみたいと思う本があれば、人生は豊かになる。ちなみに、そういう本をお持ちの方は幸せだと思います。

ちなみに私は、今年2月に人間ドックで色々な数値が悪くなっていると言われました。昨年人間ドックでは、「ブドウ糖検査の数値が上昇しています。境界型の危険性があります」といった書き方でした。これでは、気にもしていない人間が読んだら何だか分かりません。私の知り合いの人は空腹時血糖が103mg/dlで、今までならその数値は糖尿病には入らなかったのですが、お医者さんの方が判断基準を変えたので、103 mg/dlは境界型糖尿病の枠の中に入ってしまったというのです。

私は自分の人間ドックの結果が33歳の時からありますので、ずっと一覧表にしてチェックしてみると、色々な部分の判断基準が結構変わっています。昨年のコメントも、何だか分からないままお終いにしてしまいました。

今年の検査結果のコメントは、「ブドウ糖検査の結果、境界型糖尿病と診断いたします。医師と相談して治療して下さい」というものでした。ここ2、3年、家内からくれぐれも糖尿病になったらダメですよと言われていましたから、これは大変だと思って、お医者さんと相談して体重を落そうと決めてダイエットを始めました。

ということで、文字というものは人間を動かしますね。「境界型糖尿病です」と断言されたら、途端に自分自身の生活習慣を変えてしまいましたから。言葉・文字が人に与える影響は相当大きなものがあると実感しています。

本に関しては、糖尿病に関する本を8冊くらい買って、肝心な所を抜き出してプリントアウトして、本に書いてある通りに生活習慣や考え方を切り替えてみました。そうしたら、見る見るうちに体重も体脂肪を落ちました。ところが色々なお医者さんが書いている本は、所々が皆、食い違っているのです。私は裁判官になったようなつもりで読んで、<この先生のこの部分はダメ><この先生のこの部分は採用>といった具合に、気分よく本をずらっと並べて、その中の良い所だけを抽出して自分の生活習慣を作りました。一つの本だけ信じて実行しようとするのが危ない。全く正反対のことが書いてありますから。その中で自

分が気に入ったものを取り入れればよいと感じています。

本も同じような傾向のものであれば、何冊か読み比べてみる必要があると思っています。

きな臭い動き 新聞の読み方

きな臭いご時勢にだんだんなってきました。これからも色々なものが新聞・テレビ・インターネット等でごく普通にニュースとして流されると思いますが、その中でピリピリとくるものを自分なりに抽出して、いくつかまとめておくとよいと思います。

私が今、きな臭いと思ってピリピリときたものは、日本ではじめてペイオフが発動されたことです。日本振興銀行が経営破たんして、金融庁が日本で最初のペイオフをしました。1800億円の債務超過、経営破たんをした時の預金が5820億円です。日本で最初にペイオフが発動されたにもかかわらず、5820億円の中で解約の申し入れがあったのは、16日現在で7883人、291億円でした。預金額の5%しか解約をしていない。日本人というのはそれほどじたばたしない国民なのか、と非常に驚きました。

ペイオフ・ペイオフと何年前に騒いだ時期がありましたが、現実には起きた時には、耳にたこが出来ていて行動に移らなかった。すぐに銀行に殺到して預金を下ろすかと思ったら、何も動きがないのですから、やはり茹で蛙だと思いました。茹で蛙とは、釜の中の水がだんだん熱くなって来る。さっさと飛び出せば生き延びられるけれども、のんびりしていると茹で上がって死んでしまうわけです。日本の国が本当におかしくなった時にどれだけの人が銀行に殺到するのか、クエスチョンマークがつかまりました。でも日本人は極端から極端ですから、本当にそういうことになったら、もの凄い行列が出来るのだらうと思っています。

ご存知の通り、ペイオフというのは1000万円までは元金も金利も保証するというものです。それを超える預金については、1年以上経たないと返せるかどうか分からない。1年間はその銀行に預けておくことになるわけです。ですから小金持ちや中金持ちは、意外と銀行に預けっぱなしになるのだらうと思います。そしてきな臭いのが本物になると、それらは全部紙くずになります。

もう一つピリピリと思ったのは、政府の来年度予算です。お金がないにもかかわらず新規の国債をまだ出そうとしています。44兆円以内に抑えたいという発表がありましたが、国債なんか出そうと思ってはダメです。国債は借金ですから、せっせと返さなければいけないのに、更にまた借金をしようという考え方がおかしい。96億円の予算を71億円にした

いと言っていますが、今の日本の国で考えると、その半分にすべきだと思います。今現在使われているお金は借金に借金を重ねて回しているわけだから、少なくとも借金を返そうという動きをしなければならない。プライマリーバランスなどと自民党から引き継いだやり方をしているようですが、今の政府の予算の組み方が、今の考え方でやっている限り、日本はどんどん奈落の底に沈んでいくと思います。

きな臭さというのは、平気な顔で予算がいくらと新聞等で報道するけれども、危険性についての警鐘はそれほど大きく鳴らしていない。少なくとも入ってくるお金 36 兆円で全部賄うにはどうするのかという提案を、学者もマスコミも出さないのはおかしいと思います。日本の国は借金まみれで、更に借金を重ねようとしている。そういう政府の予算組みの執行部だから、日本の国の会計状態、企業でいう貸借対照表とか損益計算書というものがきちんと公開されていないわけなので、日本の国の資金繰りがどうなっているのか分からない。国だけでなく自治体については、統一された会計基準がないと私は思っています。

新聞でもっともらしい書き方をされていると、ごまかされてしまいます。新聞の能書きを一皮めくってみたらどうなっているのか、そういう見方が今後は必要になってきます。政府が発表した概算要求云々などというものは、一所懸命眺める必要があります。今回、菅さんと小沢さんの人事、引き合いがどうだったなどということばかり流していますが、読者獲得の為に週刊誌の面白そうな部分を各新聞が面白い見出しで並べているだけだと思います。くれぐれも真っ当に書いてある新聞の中身を読み取る力を付けるべきだと思います。

他に、きな臭い話題をいくつか申します。政府が出している補助金です。補助金については、私は政府は嘘つきも甚だしいと思っています。菅さんが「一に雇用、二に雇用・・・」と言っていますが、よくもまあ簡単に言うものだと思います。一国の総理大臣が雇用・雇用・・・と言うのであれば、その裏付けが必要です。雇用対策として、新卒を雇ったら補助金をいくら出しますと打ち上げたのなら、少なくとも菅改造内閣の間は同じ内容のものを補助金として出し続けてしかるべきだと思います。しかし政府が出す補助金は、だいたい3ヶ月です。3ヶ月経つと補助金の中身が変わってしまう。1年経ったら、もう滅茶苦茶で、どんどん中身が削られていきます。

この間、エコカー補助金が前倒しで打ち切られましたが、嘘つきの極みだと感じます。財源がなくなったから前倒しで申請を中止します・・・お金がないのだから仕方がないと、一瞬錯覚をさせられるような新聞の書き方ですが、何のことはない。見通しが悪くて、持っているお金では不足なので何処からか持って来ようと思っていたけれど、そんな能力も

ないから、もう皆に配るのをやめた、というだけの話です。失礼な話だと思います。

先日、会社の営業所の懇談会で、事務員さんが「退職をするので、お世話になりました」と言うのです。話を聞くと、ご主人が自動車製造会社にお勤めをされていて、九州に転勤になるということでした。今回エコカー補助金が早めに打ち切りになったので、車が売れなくなるから、400名くらいの社員が営業のてこ入れで国内に配置換えになったのだそうです。その方のご主人も第一陣の400名に入ってしまったので、家族で九州に行くことを決めたそうです。これを一皮めくってみれば、政府がくれるというお金をくれなくなったので車が売れない。会社は背に腹は変えられないから、全国各地に転勤をさせ営業をさせる。体裁の良いリストラですよ。第一陣の次は、第二陣、第三陣もあるでしょう。

これは、補助金を打ち切った裏にある一つの現実です。新聞発表のニュースを、自分の身の周りのものと繋ぎ合わせていくという読み方ができます。

最後に、最近の円高も非常にきな臭さを感じます。先日、東京フォーラムに参加の方が見えました。ホームレスの中には元社長さんが多いという話をしましたので、参与も「私も、元社長と言われぬように頑張っています」と挨拶をされました。中国貿易の仕事をされておられますから、今、円高で大変なのだそうです。「社員は不安そうに私の顔を見るので、会社の中で私は坐禅を組んでいます」と言っておられました。少し前は為替差益で、こんなに儲かって良いのだろうかと思うような時期もあったそうですが、逆目に出た時には倒産の二文字がぶら下がってきて、元社長がホームレスになるということが笑いごとではなくなっている。大変なことだと言っていました。

新聞の記事やテレビに映るものが、自分の身の周りの人たちと話しをすることによって身近に感じようになる。そうすると自分自身が動くし、動き方も変わってきます。きな臭さがどんどん増えてくると、奈落の底に落ちるスピードが上がってくる。まだ今年はこれくらいです。年が明けたら、きな臭い話が、評論家と言われる人たちからポツポツと出てきます。夏になるとかなり激しいと思います。来年の暮れになると、評論家が合唱すると私は思っています。ですから今のうちに、きな臭さの見分け方を身に付けて戴くと有り難い。

次回、新聞の読み方等をもう少し詳しくお話したいと思います。お時間でございます。有難うございました。